

風をうけて

毎年、全国高等学校定時制通信制生徒生活体験発表大会(地区大会・北海道大会・全国大会)が開催されています。本校から参加した生徒の発表内容を、あなたにも読んでもらいたく、ここに転載します。普段、何気なく使っている言葉が持つ意味や影響力を考えさせられました。言葉によって心が縛られていることもある。そんなときどう考えたらよいのか、ヒントをもらいました。

生活体験発表大会より

『無いものに縛られず』 大通高等学校 女子

「人は、変化していくものである」

これは三年前、高校一年生の私が生活体験発表大会の舞台上で話した言葉です。新入生だった当時から、私は大通高校が大好きでした。中学生の時は不登校で悩んでいましたがこの学校であれば通うことができました。私は多くの人にこの学校の素敵さを知ってもらいたい、その一心で生活体験発表大会の舞台に立たせて頂きました。そして、卒業の年の私は今と何が違うだろう。それを同じ舞台上で是非発表したい、そう思いました。

三年前、私は不登校から脱出できたばかり。学校に通うという、学生として普通な生活ができていたことが嬉しく、とても充実していました。中学生の頃はできなかった、初めての部活を始めてみたり、勉強を頑張ればテストで結果が出たりと、何事も順調でした。完璧なスタートダッシュに、私はこのまま卒業まで突っ走れる、そう思い込んだのです。

そんな中、二年生の夏、二人暮らしの母が元々持っていた持病を酷く悪化させました。母は病気のせいで毎日生きるのが辛く、涙が止まらない日々を過ごしていました。そんな母を放り一人家に置いて学校に行く勇氣は、私にはありませんでした。三年前の私が手に入れた普通の学校生活が、少しずつ崩れていきます。私は母に付きっ切りになり、ほとんど学校に行けなくなりました。出席数不足で多くの授業の単位が落ち、学校に行きたいそんな私の気持ちとは裏腹に、一つ二つと時間割に穴が空いてゆきます。気が付いたら、卒業すら危うくなっていました。ずっとこのままだったらどうしよう。どうやったら学校にいけるだろう。母のことも学校のことも、心配で不安で仕方がありませんでした。学校を辞めた方がいいかもしれない、そう



思ったこともあります。それでも私は、学校に行くことを絶対に諦めませんでした。

三年前の私は、学校に行けないのは、普通じゃない、行くのが普通。その一点に縛られていました。その私に今の生活を見せたら、きっと普通じゃないと思うのでしょう。ですが今の私は、そんなことは一切思っていません。なぜなら、こうして学校に行けない私を色々な人を受け入れてもらっているからです。担任の先生や、部活の顧問、カウンセラーの方は、私の状況をよく理解し、いつでも学校に来られるよう、全力で協力してくれました。友人達は、たまにしか学校に来ない私に何を聞くでもなく、ただ一緒に学校にいるのが当たり前のように接してくれました。部活の仲間達は、ほぼ練習ができていない私を嫌な顔一つせず迎え入れてくれました。人は普通じゃないものを簡単に受け入れることができるのでしょうか？ こんな風に受け入れてもらえるのは大通高校の人達にとって、多少の事情で学校に来られないことは、おかしいことでもなんでもないからです。誰にでも事情は少なからずあり、それを抱え生活しています。私もそのうちの一人だけなのです。大通高校は、対応できる事情の幅が少し広いのだと思います。大通高校の単位制のカリキュラムのおかげで、欠席が多い私も卒業の資格がもらえる。大通高校の、様々な生徒を対応してきた柔軟な先生方のおかげで、抱え込まずに相談できる。誰にでも何かあることを察し理解してくれる友人や部活の仲間達が周りにいるおかげで、どんなに久しぶりになっても授業も部活も不安にならず参加できる。三年前にはまだ見えていなかった大通高校の本当の魅力は、ここにあったのではないかと実感しています。大通高校での出会い一つ一つが全て、私を支え、この学校で卒業するための強い力になっています。月並みと言われるかもしれませんが、私が今前向きでいられるのは、本当に、周りの方々のお陰です。

私はこの四年間でわかったことがあります。一体、「普通」とはなんなのでしょう。例えば「あの映画面白かった？」と質問して「普通だったよ」と返ってきた時。皆さんはピンときますか？ きっと、ピンとはこない方が多いのではないかと思います。それは普通というものが非常に曖昧だからです。その人にとっての普通が必ずしも自分と同じとは限らないからです。普通は、比較から生まれる基準の言葉だと思います。ですが、普通が十人十色なら、基準になりません。ならば、「普通じゃない」ではなく、「普通は無い」なのではないでしょうか。大通高校には、そのことに気がついている人が多かったのだと思います。私が気が付かせてもらったのもその人達と多くの時間を過ごせたからです。

私達は、定時制、通信制の学生です。卒業し外に出れば、普通じゃないというレッテルを貼られるかもしれませんが、そんなことは関係ないのです。普通なんてものは無いから。今後、もし皆さんにそのようなことがあったら、自分の学校を信じて下さい。きっと皆さんの学校もとても素敵なおとこです。そして、もし自分は普通じゃ無いかもと不安になったら、普通に悩まれないでください。それはとても息苦しいことです。普通という、無いものに縛られずに自分を見てみてください。もしかしたら、少し世界が変わるかもしれません。

特別なオンリーワン

新年度の始業式で「お互いに、ことばを合わせる努力をしよう！」という話をしました。でも、ことばを合わせるというのは難しいことだとつくづく感じます。先の生活体験の文を読みながら改めて言葉の持つ力、影響力について考えました。



私たちは小さな頃から集団生活を送るなかで協調性を求められ、「和を大切に」「みんな一緒（公平）」とよく言われてきました。ひとつひとつの言葉が持つ意味についてどれだけ共通認識を持っているのでしょうか。「普通」という言葉が正にそれです。

何をもって普通なんだ？ 標準？ 平均？ 多様な価値観、多様なライフスタイルがあるだけに、余計にわかりにくいとも言えます。正体の見えない、正解のない「普通」に縛られている。自分の置かれている環境や立ち位置によって、言葉に対する認識、感覚が異なるということなのでしょう。

そういえば、こんな歌が流行ったなあ、ということ思い出しました。

小さい花や大きな花 一つとして同じものはないから

No.1にならなくてもいい もともと特別な Only one



オンリーワンの考え方はいいけれど、何かで1番を目指したり、上を目指すことを否定しているわけじゃないんだらうなと私は受けとめています。向上心あってこそそのオンリーワンなのではないでしょうか。ナンバーワンになれたらそれは嬉しいし素晴らしいけれど、それはあくまでも他者と比較した順位付け。1番以外の人は頑張っていないわけじゃない。

昨日よりは今日、今日よりは明日の成長をめざしながら、何かにチャレンジしているなかこそ“私らしさ”が宿っているのだと思うのです。あなたらしいアプローチのしかた、挑戦のしかたがあるはず。あなたにしか語れない物語、あなただからこそ語れる物語があります。それが世界にひとつだけのあなたの花なのでしょう。